

子ども教育常任委員会要点記録

日 時： 令和3年7月5日（月）

午後2時01分～午後2時58分

場 所： 議場

出席委員 (6人)	委員長 委員 委員	三階道雄 安斉きみ子 大野まさき	副委員長 委員 委員	岸田めぐみ 斎藤せいや 遠藤ちひろ
--------------	-----------------	------------------------	------------------	-------------------------

出席説明員	オリンピック・パラリンピック(兼) スポーツ振興担当部長 教育部参事 教育指導課統括指導主事 事務取扱	小林弘宜 山本勝敏	オリンピック・パラリンピック推進課長 斎藤義照
-------	---	--------------	----------------------------

案 件

件 名	審 査 結 果
1 3 陳情第4号 東京2020オリンピック・パラリンピック大会の多摩市事業で 予測される新型コロナウイルス感染症感染拡大防止に関する陳情	採択すべきもの

午後 2時01分 開会

三階委員長 ただいまの出席委員は6名である。定足数に達しているので、これより子ども教育常任委員会を開会する。

本日は、お手元に配付した日程により進めさせていただく。

日程第1、3陳情第4号 東京2020オリンピック・パラリンピック大会の多摩市事業で予測される新型コロナウイルス感染症感染拡大防止に関する陳情を議題とする。

本件は閉会中の審査となっているものである。なお、3陳情第4号については、署名の追加があったので、事務局より報告をさせる。

山本議会事務局次長 3陳情第4号について、当初の署名は0名だった。本日までに署名の提出が20名あった。合計で20名である。

以上である。

三階委員長 本件については陳情者から発言の申し出がある。多摩市議会基本条例第6条第3項の規定により、これを許可することにご異議ないか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

三階委員長 ご異議なしと認める。よって、発言を許可することに決した。

発言される方に申し上げる。議会で定める要領により、発言は5分以内となっている。なお、1分前になったらその旨をお知らせするので、時間内の発言をお願いします。

また、本日の発言は要点記録に記載される。簡潔明瞭、陳情書に沿って発言してほしい。それでは、名前をおっしゃってからご発言をお願いします。

陳情者(齋藤良次氏) 齋藤良次である。聖ヶ丘に住んでいる。

初めに、賛同署名についてである。6月17日に陳情書を提出した。その後、週末の土日の2日間という短い期間に賛同署名をいただいた。20名の方に賛同していただいた。やはり皆さん、オリンピック開催で感染が拡大することをとても心配されていた。

多摩市は、最新の感染状況を踏まえて、オリンピック推進関連事業の感染リスクを見直し、最善の対策を取ってほしいというのが陳情の趣旨である。心配なことに配付資料1のとおり、専門家は急激な感染拡大を危惧している。単純な人口比例だが、オリンピックの頃には聖ヶ丘2丁目の累計感染者

数は12人、私たちの2丁目自治会内では6人ということになる。聖ヶ丘住宅地内ロードレース観戦や聖ヶ丘小学校、聖ヶ丘中学校でも計画されている学校連携観戦は、住民の感染リスクをふやすことになると思う。

競技観戦やそれに伴う人の流れはどう考えても、専門家の感染防止対策の徹底という強い呼びかけとは矛盾する。ロードレース観戦の広報活動は、これまで様々なイベントやネット動画などで行われてきた。

広報たまである。格好よい、オリンピックヒーローのインタビュー記事もある。私の資料の2のほうに取ってあるが、右下のテストイベントのときみんな楽しそうである。しかし、沿道観戦は厳しく制約されることを避けられない。

だが、コロナ禍の今は人と人との距離を取って感染予防をする。試しに聖火リレー出発式、感染基準より厳しいほぼ1メートルの人との距離を取って、私が試しに写真を撮ったものが右下の写真である。沿道観戦は厳しく制約されることも避けられない。この私の新聞紙でも、聖火リレーのときより厳しい基準である。30%減らしたのでやってみた。

次に、資料4である。多摩市が計画中の学校連携観戦である。専門家は言う。子どもに高い健康リスクを負わせてまで行う競技観戦の教育的価値を吟味してと言っている。子どもさんばかりでなく、引率教員の皆さんにも相当の緊張を強いることになるだろう。オリンピックを応援しよう、これは私たちのコミセンの広報紙、資料5である。地域や学校では、いろいろなイベントで平和の祭典の学習が行われてきたのだと思う。学校連携観戦もその1つなのだろう。

しかし、山口元JOC理事がおっしゃるように、オリンピック・パラリンピックは世界の人々が交流し、応援し、喜び合うという平和の祭典ではなくなつたと言っている。まさにそのとおりではないだろうか。このコロナ感染拡大の中、お祭りかと感じる人は少なくないと思う。

オリンピックよりも子どもの運動会が見たいというのは、オリンピックを強行する政治のリーダーたちへの抗議の声だと思う。どうして特別扱いなのか。これは陳情書の中でも何回も繰り返してきた。

資料7、多摩市の広報、こんなに大きいオリンピック・パラリンピック推

進室が出した全戸配布だそうであるが、ここに感染拡大予防に触れた箇所は1つもない。

最後に、資料6を見てほしい。繰り返す、自治体の使命は市民の生命と安全を守ることである。市長に最善の感染予防対策を取っていただくための検討事項を幾つか挙げてみた。資料6である。

市議会がこの陳情を審査、審議する中で、論点を整理していただき、市長に具体的な感染拡大防止対策を求めていただきたい。

以上である。ありがとう。

三階委員長 一応、私のほうからも本件の要旨ということなのだが、多摩市は聖火リレー、自転車ロードレース、学校連携観戦などの市の大会に向けた取り組みにおいて最新の感染状況を踏まえて、どのような感染拡大のリスクがあるのかを見直し、最善の感染拡大防止対策を取ることを求めるということである。

本件の陳情内容について、現在の市の状況や考え方など、市側からの報告があればお願いを申し上げる。

小林オリンピック・パラリンピック（兼）スポーツ振興担当部長 それでは、オリンピック・パラリンピックの聖火リレー、それから、ロードレースに関する状況についてご説明いたしたいと思う。

現在都内の新規感染者数の増加傾向があるということ、それから、まん延防止等重点措置の期間の延長が検討されているという報道もされているところである。観戦者の入場者数についても、現在組織委員会等において検討が行われており、今後、最終決定がなされる見込みである。

オリンピック・パラリンピックの実施主体については、大会組織委員会となっているが、7月24日、25日に開催される自転車競技ロードレースは大会組織委員会が、7月10日の聖火リレーについては、東京都実行委員会と大会組織委員会が実施主体となっているところである。

このうち聖火リレーについてだが、既に報道もされているが、6月29日に、東京都聖火リレー実行委員会は、オリンピック聖火リレーの実施形態を変更するということを発表している。まん延防止等重点措置の適用期間中は公道走行を見合せ、各実施日の最終区間のセレブレーション会場におい

て、トーチキス方式の点火セレモニーを実施することになった。

7月10日に開催される予定だった多摩市での聖火リレーは、公道での走行は実施されず、聖火ランナーの皆さんは、八王子市の富士森公園を会場とするセレブレーション会場での点火セレモニーに参加されることになった。このため、多摩市ではオリンピックの聖火リレーに関する事業、イベントの開催はない。

多摩市としては、聖火リレーの実施主体である東京都聖火リレー実行委員会と連携協力しながら、実施に向けて準備を進めてきたが、聖火リレーが多摩市内で行われなくなるということは誠に残念ではあるが、実行委員会の決定を受け、現在対応を進めているところである。

次に、ロードレースについてである。こちらについては6月22日に、東京都内のロードレースの沿道自治体の市長が連名で組織委員会のほうに要望を出しているところである。オリンピックのロードレースについては、先ほども申し上げたように7月24日、25日に、武蔵野の森公園をスタートし、ゴールの富士スピードウェイを目指して実施される。

市民が安心して選手たちに声援を送り、オリンピックの興奮と感動を安全に共有できる環境を実現することが、安全・安心な大会とする上で最も重要であるということを考えて、6月22日火曜日、オリンピック自転車競技ロードレースのコースが通過する都内8自治体、八王子市、三鷹市、府中市、調布市、町田市、小金井市、多摩市及び稲城市、この8市だが、この8市を代表して多摩市長から連名にて、自転車競技ロードレースにおけるコース沿道での感染症対策及び競技中継の実施について、公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会に要望書を提出した。

要望内容は2点ある。コース沿道での感染症対策について万全を期すとともに、実施する対策について観客に対し事前に十分な周知を行い、都内8団体との情報共有を図ること。

2点目としては、沿道における密集回避の観点から、自転車競技ロードレースを自宅で観戦できるよう、インターネット等で生中継が視聴できる環境を整え、事前に周知すること、この2点である。

多摩市としては、レースの開催に当たっては、組織委員会が示す運営マニ

ュアルに基づき、ロードレースの実施に向け準備を進めているところである。なお、コース沿道に立地する聖ヶ丘小学校、聖ヶ丘中学校では、レース当日の観戦の計画はないとの情報を得ている。

それから、今回の陳情内容と直接関わるところではないが、ロードレースが開催される2日間、多摩市独自の事業として、コミュニティライブサイトを開催する予定であった。こちらについては6月24日になるが、中止を発表したところである。

これについては、新型コロナウイルス感染症がまだ収束の気配を見せしておらず、オリンピックの開催においても、感染防止対策が課題となっているということ。また、東京都は6月19日に、オリンピック・パラリンピック期間中の全てのライブサイト、パブリックビューイングを中止すると発表したところである。

6月21日に組織委員会が発表した観客数の方針の中でも、観客以外の人流対策としてライブサイト及びパブリックビューイングについては、中止または規模縮小の方向で検討を行うとともに、関連イベントの見直しを行い、コロナ禍での新たな安全・安心な応援方法などを提示することが示されたところである。

これまで、コミュニティライブサイトの開催に向けて、市としては、会場規模の縮小や会場内での食事や飲酒の禁止、事前申込み制など開催方法を見直して準備を進めてきたが、感染の状況や市民の皆様の不安など、様々な状況を総合的に勘案した結果、観客を集めたイベントの開催については、実施することは困難であると判断し、市独自の事業であるコミュニティライブサイトを中止することにした。

以上のように市としては、オリンピックの開催に向けた準備を進める一方、感染防止対策にも留意し、対応しているところである。

山本教育部参事 私からは、オリンピック・パラリンピックの学校連携観戦の状況について、ご報告をさせていただく。

まず、この学校連携観戦については、各学校において、オリンピック・パラリンピックの集大成として位置づけられている取り組みになる。東京都のほうで子どもたちの観戦希望に基づき、チケットを購入し、観戦ができる

機会を提供されているものである。現在、市内の小・中学校においては、小学校9校、中学校9校、計18校がこの連携観戦について希望をしている。

また、ほとんどの学校がパラリンピックの競技観戦を希望しており、パラリンピックの競技観戦については、8月の下旬から9月上旬、一部の学校についてはオリンピックの観戦を予定しており、その場合は7月の下旬から8月上旬に観戦をすることになる。

現在、この観戦に当たっては、東京都から最終意向調査が来ることになっているが、今日現在で、まだ東京都のほうからは最終意向調査の調査依頼は来ていない。

また、これまで議会の一般質問でもご答弁をさせていただいたように、教育委員会としては、コロナ禍において、感染症対策や熱中症対策などが十分に講じられた上で、本観戦が実現できれば、それは児童・生徒一人ひとりにかげがえのないレガシーを育む上で意義があるものと考えている。しかしながら、現在、都内の感染状況については再拡大の兆しが見えている。

こういった状況を踏まえて、教育委員会としては7月8日木曜日に、定例教育委員会の臨時会を開いて、この学校連携観戦の実施の可否について方針を決定をすることとしている。

なお、方針の決定に当たっては、各校長会から、この観戦についての意見等を取りまとめていただくこと、または希望する学校においては、学校運営協議会やPTAから本観戦についての意見について聞き取っていただくこと。そして、この感染状況について、南多摩保健所や多摩市医師会といった意見も踏まえながら、総合的に教育委員会の臨時会で判断をし、実施の可否について方針を決定をしていく。

以上である。

三階委員長
安斉委員

それでは、これより質疑に入りたいと思う。質疑はないか。

今、小林スポーツ振興担当部長、それから、教育関係では山本教育部参事からお話があった。

私は報告を聞いていても、確かに開催するのはオリンピックの実施するJOC(日本オリンピック委員会)や東京都ということがあるかと思うが、市としての判断というか、そういうことだって私はやはり考える必要があ

と思う。多摩市内の市民、子どもたちの命に関わってくる問題でもあるので、そういう意味からすると、私は市独自の考え方をはっきり示すということもあってよいと思うが、非常に曖昧だと思っているわけだが、私は最初に申し上げておくが、この陳情者の方の言葉にもあるように、最大の感染拡大防止は大会の中止だと思っている。そのことは揺るぎない。

しかし、この今の感染状況のお話が、それぞれお二方からもお話があったが、こういう状況を市としてはどう見ているのか。感染拡大のリバウンドがされている、こういう状況を市としてはどう捉えているのかそこをまず聞きたいと思う。

小林オリンピック・パラリンピック（兼）スポーツ振興担当部長 感染状況ということである。私たち一人ひとりが感染しないようにということで、様々な面で生活の中でも工夫しているところである。そうした中で、感染者がふえているというところも実態としてある。

ただ、感染されている方が、意図して感染されている状況ではないわけがあるので、その点については十分な注意、予防は確かに大事になってくるかと思う。

この感染防止策、どのような防止策を取れば万全なものなのかというところについても様々ご意見があるかとは思いますが、日常生活の中で今までの知見、対策を取ってきた中で、ある程度安全であろうという行動、対応も見えてきたかと思っている。そうした中で、どのような形であれば様々な事業が実施できるのかというところは、議論が深まってきているのかと感じているところである。

感染の拡大をいかに抑えていくのかということは大切なことでもあるが、なかなかそれがうまくいっておらず、落ち着いた状況になかなかならないというのも現在の状況であろうかとは感じているところである。

安齊委員

答えにくい答弁を私は求めたが、実は市議会の中でも6月18日はネット・社民の会、フェアな市政、日本共産党多摩市議団が市長宛てに、多摩市内聖火リレー中止及びパブリックビューイング中止を求める要望書というのを出した。

それからまた、6月23日は日本共産党多摩市議団が教育長宛てに、東京

オリンピック・パラリンピック競技大会を市内小・中学校の児童・生徒が見に行く学校連携観戦について中止をすべきであるという要望を伝えている。

確かに、オリンピックの聖火リレー、まちの中を走るということはなくなった。それからコミュニティライブサイトというか、大型テレビジョンを使って、武道館でみんなで視聴する、この観戦も中止となったわけである。でもいずれも東京都や組織委員会が、見直しをすとかやめると言った後に市はやっている。私はやはり独自の判断もあってしかるべきだと思うわけである。

それで、聖ヶ丘地域の方たちが何を心配されているかという、やはり自転車競技ロードレースである。この観戦の実施がされるということに対して、大変心配されているわけである。確かにこの地図をいただいたが、これが本当にコロナがはやってなければ、こんなに丁寧に身近なところから、自分の家から、沿道から応援できるという、すばらしい計画だったと思うけれども、今このコロナが感染し、しかも変異株がはびこる中では、これほどやはり危険なことはないと私も思うわけである。

それでお伺いするが、6月22日、タブレットには23日となっていたような気がするが、沿道8市長が要望を出していらっしゃる、先ほどもお話があった2つの要望である。

その中で、やはりその沿道の感染を防ぐために、私は沿道観戦を無観客にすることもできないことはないのではないかと考えているわけだが、陳情者の資料にもあるように、沿道での感染を無観客にすることは非常に困難だとも指摘をされている。

そこでこのテレビやインターネットとか使って中継をして、なるべくそこに参加をさせないようにするというものについての申し入れも2点目にあるが、そのときの大会組織委員会の担当者は要望は承ったと、昨日は、橋本会長のステートメントの発表も踏まえる上で現在調査を進めているところであり、善処すると答えたと出ているが、その善処がされているのか、そういう答えが実際実施して、こうするようになってきたのか、そこを聞きたいと思う。

小林オリンピック・パラリンピック（兼）スポーツ振興担当部長 6月22日に沿道の8市

の市長連名で、組織委員会に要望を出した。ここでは沿道での感染拡大をさせないということがまず第一だということから、出発しているということでもあるわけである。

ただ一方では、やはりレースが見たいが見られないということを回避するために、インターネットでもできるようにということで要望しているところである。

その要望を市長が伝えたときに、組織委員会の担当者の方からは、私たちも沿道での感染防止というのは大変重要であるというお話も伺った。ただ、レースの実際の運用に当たっての感染防止対策の詳細の情報については、まだ示されていないというところはある。これについては、私どもとしても早く提供いただいて、実際に沿道で見たいなと思っていらっしゃる方にも早く情報を伝えるということは大切だと感じているところである。

安齊委員

無観客にするということも確かに難しいかも知れないが、しかし、これだけ変異株のリバウンドということもある中では、国としてそういうこともきちんとできないはずはないと私は思っている。

でもそれでもせめてこの申し入れされたこの2番目のこういう対策について、もう本当に早く、今すぐにでもきちんと明らかにしていただかなければ、私はこの沿道の方たちの不安は拭い去れないなと思っている。

それからもう一つ伺いたいわけだが、この児童・生徒のオリンピック観戦についてだが、今近隣の自治体でもキャンセルが相次いでいる。実は先ほどの山本教育部参事のお話だと、まだ最終意向調査が来ていないとおっしゃっていたが、もう既にこれがキャンセルできるような話が実はあったわけである。それは組織委員会が学校に対して、観戦の参加キャンセルの意向を、各自治体にキャンセルしてもよいとその数を示してほしいということをしたしか求めたと思うが、残念ながら東京都はそのことを公表しなかった。

なので確かに最終的なものは来てないのかもしれないが、もう既にキャンセルしても構わないという意向調査があっているはずなのだが、その点についての認識と、それから、今度教育委員会が7月8日木曜日、定例の教育委員会が行われて、そこで方針を決定されるということなのだが、先ほどのお話だと、PTAや学校関係者にも聞き取りをきちんと行い、しかも保健

所や南多摩医師会のお話もよく聞いてということで、それは結構なことかと思うが、私はほかの自治体が、東京都がはっきりしなくても、キャンセルしている自治体が近隣にたくさんあるわけだから、ぜひ多摩市独自で判断をしていただきたいと思うが、その点を2つ伺いたいと思う。

山本教育部参事 まず、子どもたちの学校連携観戦についてキャンセルしてもよいということが、東京都のほうから示されていたのではないかということだった。

我々教育委員会としては、東京都からは前日まで各学校、教育委員会と相談をしながらキャンセルは可であると情報を得ていたので、全く今希望している学校はキャンセルできないということではなくて、今のこの感染状況等を見ながら、やはり子どもの安全が第一なので、そのことを踏まえて学校と相談をしながら、キャンセルすべきときにはキャンセルするということを考えていた。

また、7月8日に、先ほど申し上げたように臨時の教育委員会を開いて判断をしていく。もちろん近隣市の状況というものは存じ上げている。この観戦については、市民の方や議会の皆さん、それから特に学校のそれぞれ管理職の先生方も、観戦が本当にできるのかどうかということで心配をされている。

そのことについて、我々多摩市教育委員会としては、この臨時会において独自に判断をするということで、周りの近隣市の状況を踏まえてということではなく、市の状況、また市民の方の声、特に保護者の方、地域の方、そして学校の声、こういったものをしっかりと聞きながら、総合的に臨時の教育委員会で判断していきたいと考えている。

安齊委員 市民の声、学校の声ともっともなことだと思うが、私はこの間の教育部の動きとかを見ていても、学校の判断と言うけれども、本当は東京都の判断、多摩市の判断で私はやはり中止をさせるべきだと思う。大変その辺りがよく言えば、よく聞いて判断は委ねると言うが、子どもの命、先ほどは引率の先生方の健康にも陳情者が触れておられたが、そういうことに関わる問題だから、やはり東京都の責任であるいは市の責任で、確かに教育委員会というものがあるから、教育委員会でお決めになっていただいてよいわけだが、そういったあたりは私は強く持っていただきたいということだけ申し

上げて終わりたいと思う。

大野委員 先ほど沿道の自治体の首長で、要望書のほうも出されたということで、感染防止策の徹底ということで、対応してほしいということだったと思うが、それはつまりそういうことを東京都や組織委員会というところでしっかり主導してやってもらいたいという意図なのか、それともそういうもので、そういう意向が出れば、市としてもそれを徹底してやっていこうということなのか。その辺りの主体性というのは、どのようにお考えなのだろうか。

小林オリンピック・パラリンピック（兼）スポーツ振興担当部長 オリンピックの競技の運営については、組織委員会がこれは行うものであるので、その対応、どのような対策を取るのか、その部分についてはやはり組織委員会が責任を持って行うところであると考えている。なので、沿線自治体としては感染状況等を踏まえて、競技の実施に当たって、感染防止の対策をしっかりと取るようにという要望をしたところである。

大野委員 今こちらで陳情者からの資料でも、例えば広報紙やチラシや看板とかということで、きちんとお知らせをすべきではないかというご指摘もあるわけだが、そういったことを組織委員会のほうに市としても求めていると理解してよろしいだろうか。

小林オリンピック・パラリンピック（兼）スポーツ振興担当部長 公道で行われる競技については、ロードレース以外にもある。この公道での実施競技のあり方については、現在、組織委員会のほうで検討しているものと推測する。

組織委員会からは、沿道での観戦の留意事項や情報が来るかと思っているので、その情報が来たら、組織委員会は組織委員会として観戦に当たっての留意点を、告知・広報をすることになるかと思うし、市としても、こちらの要望にもあるように情報共有を図ることとしているので、情報の提供については、速やかに進めていきたいと考えている。

大野委員 その情報の共有という範囲で、いろいろやり方があると思うが、以前の委員会のときに説明していただいたのは、例えば距離を取ってほしいみたいなのを、声かけというよりも何か着ているものでそういうのを呼びかけるという話はあったが、仮に組織委員会が沿道での感染防止策をこういう

形で、例えばチラシを配ったり何なりということもやるかもしれないといった場合に、そういったものを市としてもそれを補足するようなことというのはあるのかなのか、そういうことは全くないのか。

あくまでも組織委員会の、例えば要望とかあるのかどうか分からないが、地元自治体としてもそういうことに協力してほしいみたいなことはあるのかどうか。なくても市としてどういうふうを考えるのかということは、私も先ほど安斉委員がご指摘されたように、そういう意思があってもよいと思うが、その辺りについてはどういうふうにお考えというか、どういう対応になるのか。

齊藤オリンピック・パラリンピック推進室長 今お尋ねいただいたのは組織委員会が感染防止対策を図っていく上で、例えば地元自治体に何か要望があったら、それに協力していくのかということかと思うが、まず、結論から申し上げますと、できる範囲でももちろん協力をさせていただくということを前提に協議、また話し合いなどもこれまで進めてきている。

先ほども委員のほうからお話のあった、前回の委員会で要は声をかけるという行為があくまでも任意であるので、それに対して気を悪くされるようなことがないようにビブスを着て、お示しをするというところももちろんあるし、あと実際にお声をかけて静止を含めた指導というか、そうしたものをしていくのはやはり有償の警備員というか、プロの方々に、市のほうで今ご協力させていただいているのは自転車レースをするために必要な資機材の展開をする。要は資機材をコース上に展開をしていって、そして、車列が通り過ぎた後、また、撤収をかけてもとに戻す。2日間にわたって行われるものだから、もう一度翌日そこへ展開して、また戻して、通常の交通の用に供するような形に戻すというところのコースの資機材展開、もちろんその資機材が展開し終わった後、ボランティアの方々、あと市の職員も今回ボランティアリーダーとして参加させていただくが、そうしたものが少し手が空く状況になったときには、もちろん休憩を取っていただきながらだが、交通誘導のお手伝いや道案内のサポートということで、基本的に組織委員会や東京都や警察の対応が基本とし、その上で、それぞれのサポートもしくはお手伝いをさせていただくというところでの協力。

あともう一つ、今小林スポーツ振興担当部長のほうから申し上げたが、早く情報をいただければ、たま広報や多摩市の公式ホームページ等で、広く市民の皆様にも様々なことを周知できるというところで、逆に協力したいのでぜひとも情報を早く欲しいということをお願いを申し上げているような状況である。

大野委員 あと沿道の首長で要望した内容にインターネットの中継をとということがあるが、現状、その可能性についてはどのような感じなのか。

齊藤オリンピック・パラリンピック推進室長 正式なものというか、関係者から聞きつけているような状況だが、何とかインターネットのライブ中継については確保できそうだと。ただ、どこのURLを使って見ていただけるのかという調整を今していただいているようである。それがわかり次第、ぜひとも早めに教えてほしいということで、先ほどご質問あったが、8市で多摩市長が代表して、組織委員会にお持ちさせていただいた後、コミュニティライブサイトの中止も行ったが、大体その2番目のところである、ライブ中継の目鼻が立ったというところを1つ理由として、東京都に倣ってということではなくて市の独自の判断としてさせていただいたということもある。

大野委員 あと実際にこういうご懸念の陳情が出てくる背景には、おそらく市民の中にもご不安に思っている方もいらっしゃると思うし、また、学校のほうでも今後は臨時の教育委員会で、いろいろな各学校のPTAなり、それぞれの声をきちんと聞いた上でということなのだが、現状それぞれ市民の方からあるいは学校の児童・生徒の保護者などから届いている声というのはあるのだろうか。

山本教育部参事 実際、市民の方から直接教育委員会ということだが、市民の声として届いているものについては、中止をしてほしいという意見が来ている。

また、各学校で、これは今希望校で保護者の方や地域の方に意見を聞き取っていただいている最中ではあるが、その中で今聞いている内容としては、今、無理をして行かなくてもよいのではないかとということと、また、昨今の再拡大の兆しが見られるということで、学校連携観戦については行わなくてもよいのではないのか、そういったご意見をいただいている。

一方で、多くはないが、やはりこの日本で、そして自分たちが住んでいる

東京都でこういったオリンピックが開催されるので、せっかくの機会なので、こういった感染症対策が十分行われているということであれば、子どもたちをこの連携観戦に行かせてあげたいというご意見も聞いているところである。

大野委員 あと申しわけない、アイスランドの選手団のことについても、先ほどの陳情者の方のお話の懸念事項でもあるが、前回の委員会以降、何か動きがあるのか、あるいは特に変化はないのか、現状どういう状況なのだろうか。

齊藤オリンピック・パラリンピック推進室長 アイスランドのオリンピック・パラリンピックの事前キャンプについてのご質問であるが、ちょうどここで最終的な選手のエントリーが締め切られるということで、今夜もう一度アイスランド側に連絡を取って、最終決定内容の確認を取ろうかと思っている。それ以外に大きな変更点等ももちろんない。

これまで淡々と準備を進めてきた、宿泊施設のリンクフォレストさん、また、練習施設のご提供をいただく国士舘大学さん、そうしたところの皆さんと協力しながらコロナ対策というところで、保健所にもご指導いただきながら準備を進めてきている。その後、選手等を確定し、詳細な部分も確認した上で、7月の中旬をめどに受入れをしていくというところで、今準備を進めているという状況である。

遠藤委員 頂戴していた陳情の内容と今日お配りいただいたこの資料の内容と大分ニュアンスが変わってきている部分があるが、そこについて確認しておきたいが、頂戴した6月17日受理の陳情においては、文言として感染リスクの増大、不安、不信による心のストレスを最小限とするように、オリンピックによる新型コロナウイルス感染拡大の防止対策を取ってほしい。これが趣旨だったし、特に具体的内容というのはそれほどなかったと、文言を読んで我々判断してきた。

今日お配りいただいた配付資料を今日読んで、今日判断しろというのは難しいと思っはいるが、こちらを見ると学校連携観戦を中止してほしいとか、市の財政負担を説明してほしいとか、いろいろと最初にいただいた陳情内容と異なっている部分があると思うが、これについてはどっちというか、基本的には文面審査だから、いただいたもので判断すべきだと思うが、その

辺この追加資料の意味合いを確認したいが、これは事務局か。

飯島議会事務局長 ルールからいくと、あくまでも書面の審査ということになるので、以前に出された陳情書について付託されておるわけなので、そのものについて審査をいただくというのがルールである。なので、補助資料として出されたものを審査するわけではないので、そこのところは今度それをもって、どういうふうに進めていかれるのかというのはまた委員会の中で決めていただければよろしいのかと思っているが、あくまでも結論を出すのは陳情についてということでご理解いただければと存ずる。

遠藤委員 確認するが、今日いただいた資料というのはあくまで配付資料、参考資料にとどまるものであって、本陳情が仮に採択されたとしても、別にそれがすなわち学校連携観戦の中止を意味するものでもないし、市の財政負担等の説明とかもろもろこの追加資料に関係する話とはまた違うと。あくまで最初に頂戴した陳情内容、先ほど申し上げたようにコロナウイルスの感染拡大防止対策を取ってくれという文言における今回は審査ということで確認したいと思うが、もう1回お願いする。

飯島議会事務局長 あくまでも今回の陳情についてはそのとおりのことであるので、もし例えばそこのご意見を言うていただくときに、例えば議論のところ、本陳情に関してはというところでご発言いただいてもそこははっきりするのかと。その方のご意見がどういう意味であるのかという、ことも考えている。

遠藤委員 そこを確認したかった。質問者ではなくて陳情者の方が追加の資料で言いたいことはたくさんおありだったと思うが、1枚目いただいた陳情と2枚目、今日もらったものが大分変わってきているので、そこは議会のルールに基づいて議論しないと、どっちについて論議になっているのかというところが変わってくる。

今日もらった資料で審査するならそれで言うていただかないと、今日いただいて会派での打合せも何もなくて、結論を出せないの、そこはだからこの追加資料のあり方も今後考えていただかないと、本日の審査が混乱するよう感じた。そこだけ確認できたので結構である。

三階委員長 ほかに質疑はないか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

三階委員長 これをもって質疑を終了する。

これより討論に入る。意見討論はないか。

安齊委員 3陳情第4号 東京2020オリンピック・パラリンピック大会の多摩市事業で予測される新型コロナウイルス感染症感染拡大防止に関する陳情について、採択の立場から意見討論する。

ただいま、遠藤委員よりも最初の陳情の文面と今日の資料としてそごがあるのではないかというお話があったが、私たち議会はこの陳情文面の中にあるそれぞれの文言をよく読み解いて、その後ろにある陳情者の気持ちを酌むということが大事だと思うので、私は文面どおりのところで判断をしていくというだけには限らないと思っている。

一応、陳情項目にあるように、市の大会に向けた取り組みにおいて、最新の感染状況を踏まえてどのような感染拡大のリスクがあるのかを見直し、最善の感染拡大防止対策を取ってほしいというのはもっともなご意見だと思う。

既に聖火リレー、まちの中を、道を走るリレーは中止になった。また、大型テレビジョンを使い、武道館でみんなで視聴するオリンピック観戦も中止となった。自転車ロードレースでの子どもたちの観戦も中止となったと聞いている。あと残るは子どもたち、小学校9校、中学校9校の味の素スタジアムやオリンピックスタジアムへの観戦動員である。

これはこれから行われる教育委員会で議論されると思うが、私は市教育委員会としてもこれを中止させるように、決断をしていただきたいと望んでいる。

陳情理由にあるように、最善の感染拡大防止というのは大会の中止である。これはもう私は変わらないと思っている。しかし、今もう既に選手団の入国もある中で、この感染防止の万全の対策を取るということは、国や東京都、多摩市も含めてもちろんやっていただきたいわけだが、しかし、専門家のご意見では防ぎ得るものではないとも言われている。

特にこの陳情者や署名された皆様方のご心配事は、聖ヶ丘地域の周辺のロードレースと観戦をする人々の人流と密を含めてご心配されていると思

う。

私はロードレースが実施されたとなったとしても難しいと陳情者の資料にもあったが、無観客にするなど、対策を取ることはできるのではないかと考えているし、先ほどのようにインターネット配信を行うなど、そういう対策もその中に入っているのではないかと思う。

私は陳情者のいわゆる願意を酌んで、採択という立場を取りたいと思う。
以上である。

遠藤委員

それでは、3陳情第4号 東京2020オリンピック・パラリンピック大会の多摩市事業で予測される新型コロナウイルス感染症感染拡大防止に関する陳情について、趣旨採択の立場から討論させていただく。

陳情項目では感染状況を踏まえて、感染拡大防止対策を取ってほしいとの内容であり、行政もこちらについては対応しており、方向性は一緒だと思っている。

しかしながら、陳情理由では大会の中止が最善であること、また、特別なイベント、オリンピック・パラリンピックを指してとおっしゃっているが、ほかのプロスポーツも現状では同様に開催していて、感染拡大防止対策を取って拡大しているので、決して特別ではなく矛盾しているものではないと思われる。

また、子どもたちにとっては一生に一度の機会であるので、保護者、また、教育委員会の判断を尊重すべきではないかと考える。

もちろん陳情者がおっしゃるとおり万全な感染拡大の防止対策は必要である。よって本陳情においては、文言審査であることを確認して、趣旨採択とさせていただく。

斎藤委員

3陳情第4号 東京2020オリンピック・パラリンピック大会の多摩市事業で予測される新型コロナウイルス感染症感染拡大防止に関する陳情について、先ほど遠藤委員のほうから質問があったように、あくまでも6月17日受理のものに関して審査するということなので、市側もやっただけにいるということであるが、陳情者の意見ももつともだなど思うので、採択の立場を取らせていただきたいと思います。

大野委員

3陳情第4号 東京2020オリンピック・パラリンピック大会の多摩

市事業で予測される新型コロナウイルス感染症感染拡大防止に関する陳情について、フェアな市政を代表し、採択の立場から簡潔に討論させていただく。

今の討論のご意見にもあったように、市としてもおそらくこの陳情にかかわらず、いろいろ要望されている内容が実は合致している部分が多いとは思っているが、ただ一方で、他の自治体、武蔵野市などのようにパブリックビューイングや子どもの観戦については、ほかの判断が出る前に、自治体の意思として表明している自治体もある中、多摩市としても本来ならばそういうことは取っていただきたいなということは、私たちの会派としても強く思う。

私たちの会派としても、今こういう形でオリンピックを進めることがよいとは思わないが、仮に開催されるにしても、感染拡大ということはやはりしっかり考えていかなければいけないということは思うので、この陳情については採択すべきと考え、討論とさせていただく。

岸田委員

ネット・社民の会を代表し、3陳情第4号 東京2020オリンピック・パラリンピック大会の多摩市事業で予測される新型コロナウイルス感染症感染拡大防止に関する陳情について採択の立場で討論させていただく。

私たちの会派では、オリンピック・パラリンピックの開催と、やはり感染症対策は両立しないと考えているが、先ほどの市側からの説明もあったとおり、コミュニティライブサイト、また、聖火リレーの開催をどうするかについても、都だったり組織委員会のほうが決めているということは先ほどのお話から伺った。

しかし、陳情者のおっしゃるとおり、安心だったり感染拡大の防止策を開催するに当たっても今もされているが、最新の感染状況を踏まえて行っていくことは大事だと考えている。大事なのはやはり市民の命と生活である。

よってこの陳情を採択の立場で意見討論させていただく。

三階委員長

ただいまご意見を伺ったところ採択すべきものという意見が4名、趣旨採択すべきものという意見が1名。

採択という意見が過半数に達している。よって本件は、採択すべきものと決した。

ただいま採択すべきものとした陳情だが、この処理方法について協議したいと思う。

この際暫時休憩する。

午後 2時57分 休憩

午後 2時58分 再開

三階委員長

休憩前に引き続き会議を開く。

先ほど採択すべきものとした陳情については、皆さんのご意見を踏まえ、執行機関に送付としたいと思う。

以上で本日の日程は全て終了した。

これをもって、子ども教育常任委員会を閉会する。

午後 2時58分 閉会

多摩市議会委員会条例第28条第1項の

規定によりここに署名する。

子ども教育常任委員長

三 階 道 雄